



Embassy of Japan

親愛なるカンボジアの皆様

新年明けましておめでとうございます。カンボジア駐劄特命全權大使の隈丸優次です。2014年の始めに際し、カンボジアの皆様に御挨拶申し上げます。

2013年は日カンボジア外交関係樹立60周年の記念すべき年でした。昨年1年を振り返り、まさに周年にふさわしい交流が行われた年であったと思います。

昨年一年を通じ、官民合わせて120を超える周年認定事業が両国で行われました。延べ7000人が参加した2月の日カンボジア絆フェスティバルを皮切りに、伝統及び現代の文化に関するイベント、音楽コンサート、芸術交流などの多くの事業が実施されました。これらの行事に御参加頂き、また、昨年の周年をかくも盛大なものにいただいたカンボジアの皆様、関係者の皆様に心から感謝申し上げます。本年も来たる2月20日～24日に第3回カンボジア絆フェスティバルを開催します。パンフレットを同封いたしますので、ぜひともご参加いただければと思います。

そして、60周年のハイライトとして、両国首相の相互訪問が行われました。11月には安倍総理大臣が当地を訪問しましたが、これは日本の総理として13年ぶりのカンボジアへの公式訪問でした。

それに引き続き、フン・セン首相が12月に日本を訪問しました。その際に行われた二国間首脳会議において、両首脳は、両国関係を従来の「新たなパートナーシップ」から「戦略的パートナーシップ」へと格上げし、今後地域・国際場裡の課題に関しても一層緊密に連携・協力していくことで一致しました。

我が国としては、これまでカンボジア政府が進めている諸改革、民主主義及び法の支配の強化への取り組みを引き続き支援していく所存です。

経済面でも近年目覚ましい動きがたくさんあります。昨年2月には経団連のミッションが当地を訪問しました。カンボジアに進出する日系企業の数も順調に増加しており、日本人商工会（JBAC）への正会員企業が118社に上っています。今後も、投資環境改善を図るために官民合同会議（Cambodia-Japan Public-Private Sector Meeting）等の枠組みを通じ、二国間で協力して投資環境の改善に取り組んでいます。

経済協力については、我が国は1992年以来トップドナーとして支援を行ってきています。日本のODAの特徴はその「包括性」で、南部経済回廊を構成するネアックルン橋梁、国道1号線及び5号線などのインフラから、社会開発やガバナンスを含む技術協力、さらにはNGOを通じた草の根協力まで幅広く支援しています。今後も、カンボジアとカンボジア国民の発展のために官民力を合わせて支援を続けていきたいと思ひます。

このような2013年の大きな成果に基づき、本年は両国民の交流ももっと太いものにしていきたいと思ひます。

先に安倍総理は、JENESYS2.0等の枠組みを利用し、日カンボジア間でも、今後5年間で約3000人の青少年交流を進めることを表明しております。また、これまでに国費留学により日本で学習した800名を越える若者や、東南アジア青年の船等の様々な交流のネットワーク参加者の協力を頂きながら、両国の絆が一層強まるよう努力していきたいと思ひます。今後とも皆様の御協力を頂ければ嬉しく思ひます。

最後に、カンボジアの皆様にとって、2014年が健康と幸福に満ちた一年となりますようお祈り申し上げます。

敬具



隈丸 優次

カンボジア王国駐節特命全権大使